

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 2 区分

【発行日】平成23年1月27日(2011.1.27)

【公表番号】特表2010-511460(P2010-511460A)

【公表日】平成22年4月15日(2010.4.15)

【年通号数】公開・登録公報2010-015

【出願番号】特願2009-539803(P2009-539803)

【国際特許分類】

A 6 1 L 9/03 (2006.01)

【F I】

A 6 1 L 9/03

【手続補正書】

【提出日】平成22年12月2日(2010.12.2)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

少なくとも 1 つの空気処理剤の供給装置であって、
空中の物質を検出するべく動作可能な少なくとも 1 つの空中物質検出器と、
少なくとも 1 つの空気処理剤の供給源を受け入れるための受け入れ手段と、
前記空中物質検出器により検出された現在の空中物質レベルが、バックグラウンドの空中物質レベルから所定の量よりも偏差している場合、前記受け入れ手段に受け入れられた空気処理剤の供給源から一定量の少なくとも 1 つの空気処理剤を放出するための制御手段と、

を備え、前記制御手段は、使用中、前記バックグラウンドの空中物質レベルを計算するべく動作可能である、

ことを特徴とする供給装置。

【請求項 2】

前記制御手段は、前記現在の空中物質レベルから前記バックグラウンドレベルを減算し、この量を前記バックグラウンドレベルの値で除算することにより、前記現在の空中物質レベルの前記バックグラウンドの空中物質レベルからの前記偏差を計算するべく動作可能である、

ことを特徴とする請求項 1 に記載の供給装置。

【請求項 3】

前記制御手段は、前記検出器の所定の数の最新の測定値の平均を計算することにより前記現在の空中物質レベルを計算するべく動作可能である、

ことを特徴とする請求項 1 又は請求項 2 に記載の供給装置。

【請求項 4】

前記制御手段は、前記現在の空中物質レベルの計算に費やす時間よりも長い時間の平均を計算することにより前記バックグラウンドの空中物質レベルを計算するべく動作可能である、

ことを特徴とする請求項 1 から請求項 3 のいずれかに記載の供給装置。

【請求項 5】

前記バックグラウンドの空中物質レベルは、前記装置の特定の動作モードの継続時間全体を通じて前記装置により検出された前記空中物質のレベルの平均として計算される、

ことを特徴とする請求項 1 から請求項 4 のいずれかに記載の供給装置。

【請求項 6】

前記制御手段は、所定の数の前記検出器の前記最新の測定値の 10 から 10000 のうちのいくつか又はすべての平均を計算することにより前記バックグラウンドの空中物質レベルを計算すべく動作可能である、

ことを特徴とする請求項 1 から請求項 4 のいずれかに記載の供給装置。

【請求項 7】

前記バックグラウンドの空中物質レベルと前記現在の空中物質レベルとは時間的にオフセットされる、

ことを特徴とする請求項 1 から請求項 6 のいずれかに記載の供給装置。

【請求項 8】

前記制御手段は、前記検出器から得られる測定値のローリングウィンドウから一連の平均を計算することに基づいて前記バックグラウンドレベルを計算すべく動作可能であり、
好ましくは、個々のローリングウィンドウは 2 から 10 の間の測定値の平均であり、且つ、好ましくはオーバーラップしない、

ことを特徴とする請求項 1 から請求項 4、請求項 6、請求項 7のいずれかに記載の供給装置。

【請求項 9】

前記ウィンドウは 5 分から 30 分の間の時間に及ぶ、

ことを特徴とする請求項 8に記載の供給装置。

【請求項 10】

前記制御手段は、空気処理剤の放出もたらす前記バックグラウンドレベルからの前記所定の偏差レベルを調整すべく動作可能である、

ことを特徴とする請求項 1 から請求項 9のいずれかに記載の供給装置。

【請求項 11】

前記制御手段は、放出加速手段を作動させるべく動作可能であり、

第 1 の加熱素子は、少なくとも 1 つの空気処理剤の第 1 のレベルの供給を行うようになっており、

第 2 の加熱素子、及び／又はより多くの電流及び／又はファンを与えられた前記第 1 の加熱素子は、前記現在の及びバックグラウンドのレベルに基づいて、前記少なくとも 1 つの空気処理剤の放出にブーストを与えるようになっている、

ことを特徴とする請求項 1 から請求項 10のいずれかに記載の供給装置。

【請求項 12】

前記制御手段は、バックグラウンドの第 1 の空気処理剤を供給するとともに、前記現在のレベルの前記バックグラウンドレベルからの前記偏差の検出時に第 2 の空気処理剤を分散するようにされた、

ことを特徴とする請求項 1 から請求項 11のいずれかに記載の供給装置。

【請求項 13】

供給装置に受け入れられた空気処理剤の供給源から一定量の少なくとも 1 つの空気処理剤を放出するステップを含む、少なくとも 1 つの空気処理剤を供給するための自動化方法であって、

前記装置の制御手段が、空中物質検出器によって検出された現在の空中物質レベルが、バックグラウンドの空中物質レベルから所定の量よりも偏差しているかどうかを検出し、

前記制御手段は、使用中、前記バックグラウンドの空中物質レベルを計算すべく動作可能である、

ことを特徴とする方法。

【請求項 14】

前記空中物質レベルは、前記検出器の所定の数の最新の測定値の平均を計算することにより計算される、

ことを特徴とする請求項 13に記載の方法。

【請求項 1 5】

前記制御手段は、所定の数の前記検出器の前記最新の測定値の 1 0 から 1 0 0 0 0 のうちのいくつか又はすべての平均を計算することにより前記バックグラウンドの空中物質レベルを計算すべく動作可能である、

ことを特徴とする請求項 1 3 又は請求項 1 4に記載の方法。

【請求項 1 6】

前記バックグラウンドレベルは、前記検出器から得られる測定値のローリングウィンドウからの一連の平均に基づいて計算される、

ことを特徴とする請求項 1 3 から請求項 1 5のいずれかに記載の方法。